

大
正
社

京都染一様持木の地

頭形
波瀬一揆

部落の歴史 (中世～江戸時代) ～差別の源流を探る～

27分 [C#3562]
字幕版あり [C#3564]

部落の歴史 (明治～現代) ～近代化が存続させた差別～

26分 [C#3563]
字幕版あり [C#3565]

企画意図

「部落差別をやめよう」とか「部落に対する偏見をなくそう」とかスローガンを主張するだけでは、部落差別はなくなるのではないでしょうか。部落の近くに住み、部落という存在をよく知っている人も、あるいは、部落が近くになくて殆ど知らない人も、両者とも「なぜ、部落という地域があり、なぜ差別されてきたか」が腑に落ちない限り、現代にも根強く部落差別を解消する意識が育まれないと思います。

同対法の期限が切れ、同和行政に対する問題点も指摘されている現在こそ、「では、なぜ部落が差別されているのか」ということを問い合わせ、考えるビデオの意味があるのではないかと思って、制作をすすめました。

各巻 69,300円(本体 66,000円)
2巻セット 115,500円(本体110,000円)
[C#3566] 字幕版セット [C#3567]



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
<http://www.toei.co.jp/edu/>

部落の歴史（中世～江戸時代） ～差別の源流を探る～

現在でも被差別部落出身の人々に差別的内容のハガキが多数届けられる事件が起こっています。それは多くの市民の中に差別意識が残っているからです。この差別意識はいったいどこから来たのでしょうか？

中世に遡ると、「非人」と総称される被差別民は、都市の周辺や河原に住み、神社や寺・都の掃除、死んだ牛馬の処理、死者の埋葬、芸能など、穢れを取り去る仕事に従事していました。当時の人々にとって生死に関わる仕事は「穢れ」に触ることで、仏教の教えに反する残酷な行為。このような仕事に携わる人々を恐れ特別視する社会でした。

江戸時代に入ると、「宗門改帳」が作成されるなど、身分が固定化されたことで、差別が厳しくなっていきました。当時、被差別身分の人々は、「皮役」「警吏役」「掃除役」など、の幕府や藩が決めた役目を果たしていました。中には、農業をはじめ、草履、雪駄、竹製品を製造販売したり薬の製造や医者、助産などの仕事に携わる人々もあり、また、必ずしも経済的に貧しい人々だけではありませんでした。

江戸中期になると、幕府は権力を維持するために身分統制を強化。被差別身分の人々の行動をさらに規制していきました。これに対して、被差別身分の人々が一揆を起こして差別的な政策の撤回を勝ち取った例もあります。

部落差別は、江戸時代の身分制度によって起こったのではなく、中世からの差別がその源流にあります。部落の人々が担ってきた役割は、穢れたもの、危険で汚いことと思われてきましたが、実は人々が生きていく上で必要不可欠なことでした。現代に生きる私たちも、そうしたマイナスの部分を部落の人々に押し付けるのではなく、自分自身の問題として引き受ける覚悟が必要です。「部落の歴史を学ぶ」ことは、私たち自身の意識を問い直すことです。そして、部落差別をはじめとする様々な人権問題に立ち向かう力にしていくことが大切ではないでしょうか。

部落の歴史（明治～現代） ～近代化が存続させた差別～

1871年に明治政府は「賤民廃止令」いわゆる「解放令」を出し、制度上の被差別身分が廃止されました。しかし、急速な近代化を進める明治政府は、被差別部落から皮革の専売権や「警吏役」などの役割を奪います。大企業は就職差別などにより部落の人々を排除。被差別部落の人々は炭産業、紡績業、建設業などの不安定な雇用の下で低賃金の重労働を強いられ、部落はスラム化していきました。

1922年に「全国水平社」が創立。「水平社宣言」は、日本で初めての「人権宣言」とも言われ、創立大会の参加者に深い感動と勇気を与えました。しかし、満州事変を契機に日本が軍国主義化していくなか戦争に協力。太平洋戦争が始まると、全国水平社は消滅します。

1951年には「オールロマンス」誌の小説の差別的内容が問題となりました。これをきっかけに、部落差別解消のための行政施策への要求が全国に拡大していきました。

高度経済成長期に入ると、部落産業は衰退し、部落の人々は都市に仕事を求めて流出。教育を受ける機会を奪っていた人にとって就職は困難を極め、部落の人々は、下請けや臨時工、パートなど低位の労働者になっていました。

1969年、政府は「同和対策事業特別措置法」を施行。以後、長年の取り組みによって、部落の生活環境、社会福祉、産業、教育なども改善され、周辺地域との格差も縮小しました。

しかし、その後も「部落地名総鑑」という差別図書が販売される事件が発覚したり、行政書士による戸籍謄本不正取得が起こるなど差別事件は続き、格差社会のなか新たな部落差別意識も形成されてきました。貧困や学歴などを理由とする明治以降の差別意識と、中世からの古い差別意識が複雑に重なりあって現代の部落差別は形成されています。競争・格差社会の中で、私たち一人ひとりが社会システムそのものの在り方を考えていかない限り、部落差別をはじめとする様々な差別は再生産されてしまいます。

部落史は変わった！新しい部落史像を

監修：関西大学文学部講師 上杉 智

小・中学校の教科書から、「土農工商えた非人」や「部落は、江戸時代に作られた」という記載が、ほとんど消えてしましました(01・'05年検定本)。本格的な歴史研究が進むにつれ、こうした考えは誤りであり、修正すべきという理解が、ここ20年、歴史研究者の間に定着してきたためです。この大きな部落史観の転換を受け、このたび作られたのが、当ビデオです。起源から現代まで、映像を通して、新しい部落史像を多くの人が共有できると思います。

プロデューサー … 中鉢 裕幸
吉田 和義
監督 … 大熊 照夫

制作協力 … 有限会社 吉田映像工房

企画・制作 … 東映株式会社 教育映像部

2007年作品 p.

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 ☎03-3535-3631
関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 ☎530-0001 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区八丁堀16-10 ☎730-0013 ☎082-511-2066
高松出張所 高松市本町11-7 ☎760-0032 ☎087-851-3766
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 ☎810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは……

(株)オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101